

戦争のない世界を子どもたちに

ピースフェスタ門真

大震災・沖縄と日本の未来を考える

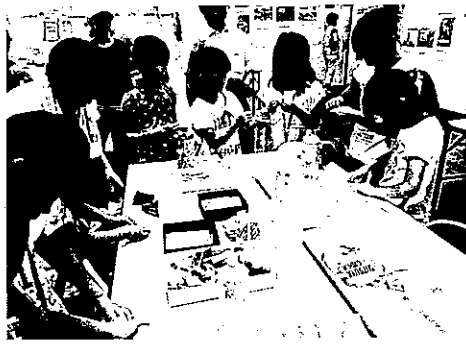
七月二六日(金)・二七日(土)、門真市ルミエールホールにおいて、第十九回ピースフェスタ門真が開催され、大きな成功をおさめました。

平和のための戦争展



展示ホールでは、二日間延べ二四二名の市民・学生らが見学に訪れました。原子爆弾の惨禍を描くパネルや戦争遺品のほか、本年度は、東日本大震災二年半となる被災地の現状「忘れないで！」の特別展示や沖縄に押し付けられようとしているオスプレイ配備や米軍基地に反対

する「沖縄の願い」も展示されました。



千羽鶴を折る子どもたち

子どもを守る市民の会は、「戦争の悲しみが門真にもありました」との展示をし、子どもたちに紙芝居を上演しました。

○津波で母さんをなくしてとてもかわいそうでした。戦争はいつはじまるかわからない。平和がつづいてほしい。(女性・10歳)

夏休み映画会

二七日午前は、大ホールでなみはや高校生徒会で作った「平和メッセージビデオ」

を上映し、続いて「マジック・ツリーハウス」を無料招待で上映しました。字幕スパーを付け、聴覚に障がいのある子どもたちも含め、三五〇名ほどの市民・子どもたちを楽しんでもらいました。

ピースステージ

二七日午後は、レセプションホールに九一名が参加しました。会長の北澤さんは「平和に生きるということとは、戦争がないということだけではない。安心して生活できることのすべてが大切だ。」との挨拶をしました。



実行委員長の村下さんは「東日本大震災の街を訪れて」と岩手県釜石市を訪問した体験を報告し「震災や沖縄問題ときちんと向き合う機会にしたかった」とあいさつしました。



高校生
の司会で



オスプレイについて語る
平井美津子さん

進行し、沖縄平和ネットワーク代表世話人をされている講師の平井美津子さんは、「今、基地に囲まれた沖縄の願いは何?」と題して、演劇部の寸劇での質問・疑問に答えるやりかたで、大変わかりやすく話を展開されました。沖縄戦では、たたみ一畳に4発もの爆弾が飛んできたこと、軍隊は住民を守らなかったことの数々の実例が紹介されました。

現在、日本にある米軍基地の75%が集中する沖縄で、「普天間基地に最も近い普天間第二小学校で実際に行われている訓練はどれでしょう?」の4択クイズでは、正解は「アメリカ軍機が学校に墜落してきたときの訓練」でした。1959年には宮森小学校に戦闘機が墜落炎上して17人が死亡したこと、また、2004年には、沖縄国際大学に米軍ヘリコプターが墜落炎上しました。「あなたは基地に賛成? 反対?」:大変充実した学びの場となりました。

平和コンサート

門真なみはや高校のフォークソング部は Reason など2曲を生き生きとして歌い、「私たちにとって平和とは、音楽をできる幸せです。」とメッセージを語りました。



関西合唱団と門真なみはや高校フォークソング部合同で「花が咲く」を歌う

関西合唱団は2曲。福島原発の被災を思つて歌う「風を返して、土を返して」の素晴らしい歌声には涙が出ました。ラストは全員で We are the world を歌いました。会場での募金は4502円いただきました。二日間にわたり、献身的に働いていただいたみなさま、ありがとうございます。

来年は10周年です

戦後五〇年を機会に始めたピースフェスタ門真です。困難な中、一人ひとりが自分の生きる場で、働き学び、愛し闘い、再び集いましょう。